

一般市民向け救命処置の流れ

新潟大学保健管理センター（2020年6月改訂）

①傷病者の発見

②周囲の確認 2次災害の危険性がないか確認

③傷病者の全身状態と反応の確認

※顔を近づけすぎない

新型コロナウイルス感染症の流行している状況下では、傷病者は感染の疑いがあるものとして※の対応を行う

反応の確認

軽く肩をたたいて大丈夫ですか？



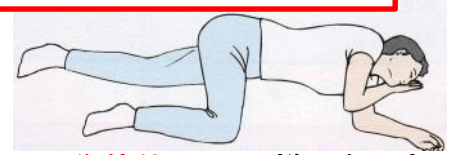
④救急車とAED要請 大声で叫び、助けを求める

119の電話を切らず助言、指導を受ける

呼吸の有無の判断ができないときは胸骨圧迫を開始する

呼吸がない

呼吸がある



回復体位にして、様子を見守りながら救急隊員の到着を待つ

⑤胸骨圧迫の開始 AEDパッドを装着するまで

※ハンカチ、タオル等を傷病者の鼻と口にかぶせる
《胸骨圧迫のポイント》

1. 圧迫の位置は、胸の真ん中
2. 圧迫の際は、垂直に体重をかける
3. 圧迫は、胸が5～6 cmの深さ
4. 速度は、100～120回/分のテンポで絶え間なく
5. 圧迫の解除は胸がしっかり戻るまで待つ
6. 胸骨圧迫の中断は10秒を超えないように

AED到着

①AEDの電源を入れ、音声メッセージに従い操作する

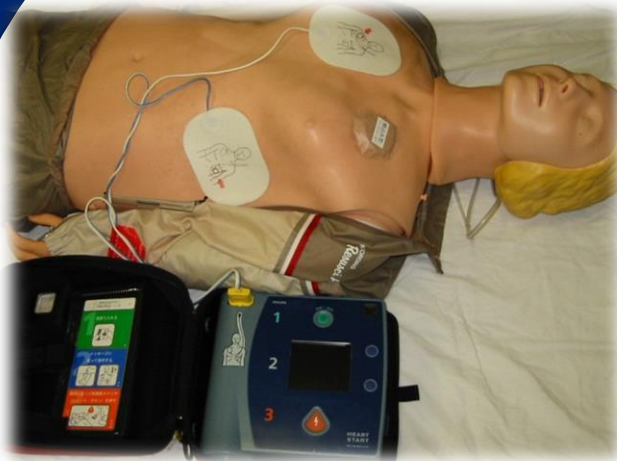
②電極パッドを胸に貼る

《注意》

1. パッドを皮膚に密着させる
2. 胸が水や汗で濡れている場合は拭く
3. シップ薬などは剥がす
4. ペースメーカーなどの機器が植え込まれている場合は3 cm以上離す
5. ネックレスなどの金属類は外す

③音声メッセージに従い、通電（ショック）ボタンを押す

* 傷病者に誰も触れていないことを確認



注意 救急隊員に引き継ぐまでは電源を切らない
貼った電極パッドは剥がさない

- ショック後、AEDの音声メッセージに従い、ただちに胸骨圧迫を再開する
- 救急隊員に引き継ぐまで、あるいは傷病者の反応が出現するまで、胸骨圧迫を継続して行う

※ 引き継ぎ後は速やかに石鹸と流水で手指、顔を洗い、傷病者に使ったハンカチ、タオルは直接触れないようにして捨てる